

2022(令和4)年度 学校評価総括表

斑鳩町立斑鳩南中学校

<p>教育目標</p>	<p>人間尊重の精神、「和」の精神のもと、時代の変化をみつめ、地域や学校の実態を踏まえ、心身ともにたくましい知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。スローガン「輝け瞳 キラキラと」</p>					<p>総合評価</p>	
<p>教育方針</p>	<p>本校の教育は、「日本国憲法」・「教育基本法」に定められた教育の根本精神に基づき、奈良県教育委員会の「学校教育の指導方針」をふまえ、斑鳩町教育委員会の指導のもと、積極的な教育実践を推進する。世界遺産「法隆寺」を北東間近に望み、伝統ある文化的環境を生かし、聖徳太子の「和」の精神を基調として、人権を尊重する民主的な社会の発展と、新しい文化の創造に努める豊かな人間性をそなえた生徒の育成を目指す。</p>					<p>B</p>	
<p>学校経営ビジョン</p>	<p>めざす学校像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○明日も行きたい学校 ○一人一人が大切にされる学校 ○自ら学び、夢を実現できる学校 ○地域に開かれ、信頼される学校 	<p>めざす教師像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導力の向上に取り組み、学び続ける教師 ○人権意識を研ぎ澄まし、思いや願いを受け止められる教師 ○明るく人間性豊かで、子どもの最高のモデルになる教師 	<p>めざす生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな人間性をもち「生命」「人権」「なかま」を大切にする生徒 ○自ら学び考える力をもち、学ぶことに挑戦する生徒 ○規律を大切にし、やり遂げる力をもつ、心身ともに健やかな生徒 				
<p>前年度の評価と課題</p>				<p>今年度の重点目標</p>			
<p>○数年来、積極的に授業改善に取り組んできた結果は徐々に表れている。今後も、教員の指導力を高めるとともに、生徒の対話的で深い学びにつながる授業展開を推進していく必要がある。 ○アンケートの評価が低かった自主的な活動(生徒会活動等)の充実を図りたい。</p>				<p>○教職員のための3S(誠実な対応・組織力を生かす・しなやかな発想)の徹底。 ○生徒の3J(自尊心・自主性・自立心)を高める教育活動の推進。 ○新型コロナウイルス感染症対策を講じながらも、必要な教育活動を推し進めていく。</p>			
<p>評価項目</p>	<p>具体的目標 (評価小項目)</p>	<p>具体的方策・評価指標</p>	<p>評価</p>		<p>成果と課題(評価の分析)</p>	<p>課題の改善策等</p>	<p>学校関係者評価</p>
<p>学力の向上</p>	<p>習得した知識を活用する学習方法を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての教科で思考力・表現力・読解力を身に付けさせ、習得した知識を活用する力の増加を図る。 ○すべての教科で自分の考えをまとめて、発表させる機会を持つ。 ●生徒・保護者アンケートで、「生徒が考えをまとめたり、発表したりする」という項目の肯定的な回答90%を目指す。 	<p>B</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年に比べ生徒たちが活動する機会は増えており、一定の成果は出ている。しかし、教員が教科書を終わらせることに比重を置いていることから、今後時間の使い方が重要になってくると考える。 ●生徒の肯定的な回答の合計は65%であり、まだまだ達成には至っていない。また、教員の67%が否定的な回答であり自覚している。 	<p>次年度は、教科だけでなく学校の教育活動全てにおいて、自らの考えをまとめ、発表する機会を増やす一方、他者の考えを聞き、意見を述べたり批評することを通してさらに学びを深化させたい。一斉授業という授業スタイルから中々抜け出せない状況にあるため、主体的な学びとは何か研修を深める必要がある。</p>	<p>今、社会に求められている「人材」を育てる教育をされていることに感心した。今後も、自らの考えを発表する機会を増やしていただきたいと思えます。</p>
	<p>学習習慣を身に付けさせ、学びの充実を図るため、家庭学習の充実を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学年ごとに生徒の実態に即した学習課題を設定し提示する。提出させた課題を丁寧に確認・評価することで生徒の家庭学習への意欲を高める。 ●生徒・保護者アンケートで、家庭学習をほとんどしない生徒0を目指す。 	<p>B</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○約4分の3の生徒が塾を含め1時間以上家庭学習に取り組んでいる様子があり、部活動や塾に通う忙しい生徒が多い割には多いと考える。今後はレポート等を増やしていきたい。 ●家庭学習にかかる時間の問いに対し、1時間以内である生徒が4人に1人という結果になっている。 	<p>次年度、ネットリテラシーや破損への手立てをしながら、週末は端末を家庭に持って帰らせ、ミライシードやレポート等の学習を進める予定。</p> <p>今回のアンケートでは「まったくしない」が10%おり、家庭学習の習慣をつけるための取組を推進していく。</p>	<p>時間も大切ですが、質にも注目した取組をお願いします。本校生が高校でもタブレットを使いレポート作成等が出来るよう指導をお願いします。</p>

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価			成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
心の教育 の充実	校内外を問わずに、元気よく挨拶をする生徒を育てる。	○ 定期的にあいさつ運動を展開し、挨拶することの意義を理解させるとともに、挨拶をする習慣を身に付けさせる。また、教員自ら率先して挨拶することを通して、生徒の意識の変容を図る。 ● 生徒・保護者・教員アンケート結果で、挨拶がよくできているという肯定的な回答90%以上を目指す。	B	B		○ 登下校時の教員の声かけや生徒会による挨拶運動などにより一定の効果は出ている。「あいさつ」は人間関係の始まりであり基礎となるため、今後も継続した取組を進めていきたい。また、指導する立場にある大人も実践する必要がある。 ● 生徒の肯定的な回答88%に対して、保護者79%、教員67%とやや低い結果となった。	次年度も今の取組を継続しながら、さらに生徒会中心に「あいさつ標語」などの募集、優秀作品の校内掲示等の積極的な活動に向けての準備を進めている。同時に教員自らが「あいさつ」を実践することも徹底していきたい。 概ね達成しているの、さらに学校全体として意識を高め、町に発信できるよう努めていきたい。	校内でも気持ちの良い挨拶をしてくれる生徒がいても嬉しく思っています。地域の方々との関りにもつながる挨拶を全ての生徒が出来るよう今後の活動に期待しています。
	丁寧な言葉遣いができる生徒を育てる。	○ 学校の教育活動全般を通して、「場」に応じた言葉遣いについて考えるとともに、正しい言葉遣いができるよう指導を行う。教員自身が意識して、授業等で丁寧な言葉遣いを行う。 ● 生徒・保護者・教員アンケート結果で、「正しい言葉遣いがよくできている」という肯定的な回答90%以上を目指す。	B	B	B	○ 生徒の意識は年々高まってきているように感じる。ただし本校の教員の平均年齢が比較的低いこともあり、時には生徒・教員相互に砕けた言葉遣いになってしまっている時がある。 ● 生徒の肯定的な回答90%に対して、教員は67%と低い結果となっており意識のズレが大きい。	生徒と年齢が近いことは、話しやすさや相談しやすさにつながる反面、言葉遣いが疎かになっている傾向がある。「場」に応じたとは、「正しい言葉遣い」とはについて共通認識を図っていきたい。 教科に限らず、教育活動全般において生徒の意識だけでなく教員の指導も徹底していきたい。	世間的にも綺麗な言葉遣いが少なくなっている。話しやすい先生であっても、目上の人を敬う気持ちは大切にしてもらいたいと思います。
	自尊感情の高い生徒を育てる。	○ 互いの素晴らしいところ、見習いたいところ、頑張っているところ等を褒めあう、認めあう活動を展開する。 ● 生徒・保護者アンケート結果で、「自分には良いところがある」と回答する生徒80%以上を目指す。	B	B		○ 今年度、教科や行事など生徒の発表の機会を大幅に増やした。また、発表に対して互いに感想や意見を言い合う機会も設けたことで生徒の相互理解が進み、一人一人の自尊感情の高まりにもつながった。 ● 生徒の肯定的な回答79%に対して、約2割が否定的な回答をしている。	「自尊感情の高い生徒」の育成を目標に、生徒の力を信じ、自ら取り組ませる活動が増えつつある。しかし教員主導で展開している活動が多く、教員の意識改革が必要である。 自尊感情は、他者との関わりの中で高まっていくことから、次年度も主体的な活動(特に生徒会活動)を推進していく。	家庭でも、子離れが出来ていない親が多いと感じる。まず大人が「信じてやらせてみる」ことが必要。失敗も含めて、子供の自信につながる活動を増やしてもらいたい。
生徒会活動の活性化	主体的に生徒会活動に取り組む生徒の育成を育てる。	○ 生徒の自発的・自治的な活動が効果的に展開されるように、適切な指導を行う。よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめる話し合い活動や自分たちできまりをつくって守る活動、人間関係を形成する力を養う活動などの充実を図る。 ● 生徒アンケートで「生徒会活動に関心を持ち、積極的に活動している」と回答する生徒70%以上を目指す。	A	A	A	○ 修学旅行や宿泊体験学習等の校外活動に加え、生徒総会や全校集会などを通して生徒の自主的な活動機会を増やすことが出来た。こうした活動の中で生徒達はより良い集団(組織)作りに努めていた。ただし、本校生には「個」としての脆弱さが見受けられるため、「自立した個」の確立が必須だと考える。 ● 「生徒会活動に関心を持ち、積極的に活動している」の肯定的な回答90%と目標を大きく上回った。	3年ぶりに再会した活動が多く、生徒の自主的な活動の機会は大幅に増加した。次年度も自主活動の中身を、教員主導ではなく生徒主体なものにしていくことで、生徒自らの有用性を高めていきたい。またレジリエンスカの底上げにも触れていきたい。 生徒が主体性を持ち、様々な活動に取り組めるように教員の意識改革に努め、生徒の自主活動を保障していく。	自分たちで楽しい場所、楽しい事を考える時間が大切で、これから様々な制限がなくなり実施されることを願っている。修学旅行から帰ってきた子供が「みんなで活動できた」と喜んでいました。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価		成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価	
教員の育成	教員の教育・授業力・指導力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管理職による授業観察と研究協議による授業力の向上、日々の取組に適切かつ具体的な指導助言を行う。 ● 教育研究部と連携し、学習指導要領に基づいた学力向上への取組を推進する。 ● 若手教員の総合的な指導力育成のため、校内研修の充実に努める。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価についての研修は実施したものの、授業観察は未だ不十分であるため、次年度は回数を増やし指導を徹底していきたい。 ● 教務部と教育研究部が連携して、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、本校生徒の課題を教員間で共有し日々の取組につなげている。校内研修については年度途中から計画に入れることが出来なかった。 	<p>次年度は授業観察を定期的実施し、観察した内容を丁寧に伝え、同時に授業改善のための指導を行っていく。</p> <p>今年度より、水曜日を部活動休養日と定めて学年会議、職員会議を計画した。次年度もこれを踏襲し水曜日に各校務分掌から年1~2回の割合で職員研修を実施していくよう計画している。</p>	全体に若い先生が多いが、生徒が授業に興味を持つよう工夫している先生が多いと感じた。今後も、授業力の向上に期待しています。	
	教員の教育・授業力・指導力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業公開期間に、公開授業を実施し、教科部会を開き、授業の振り返りと授業展開の方法論を交流する。 ○ 年間1回、指導主事を招いて授業研究を行い、全教職員で研究協議を行う。 ● 生徒による授業アンケートの4段階評価で平均3.5以上を目指す。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育研究部を中心として、「めあて」「まとめ」を全ての授業で行う目標を定め実践した。また、1年生で公開授業研究を実施し、教員が互いに授業を見合い、グループに別れ討議した。最後に県教委の指導主事から講義及び講評をいただいた。 ● 授業アンケートすべての項目を平均すると、3.26となり達成できなかった。 	<p>公開研究授業のテーマ「対話的で深い学び」について、教員同士が学び合ったことで一定の成果をみた。しかし、これまでの授業スタイルからなかなか抜け出せない教員も多いため引き続き研修が必要である。</p> <p>表現・意見交流の機会、振り返りにおいて低いため改善していきたい。</p>	先生同士で学び合い、自らの良さも活かしながら幅広い授業を展開していただきたい。先生個々の授業力の差を縮め、生徒が平等に授業が受けられるよう期待する。
	教育の資質の向上に向けたICT活用教育を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全教員がICT機器の有効活用について理解し、活用するノウハウについて、教科部会等を通じて、研修する。 ○ 生徒用タブレットを使用した授業を行えるように、ICTサポーターと教材研究を行う。 ● 授業で活用した教員の割合を80%以上にする。 ● 情報モラル授業を年に1回は行う。 	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年々、使用頻度は上がってきているが、教職員の中には抵抗感を持っている者もいる。今後そうした教員も利便性を理解し、有効に活用できるように研修を深めていく必要がある。関心の高い教員は、ICTサポーターと教材研究を行っている。 ● 「効果的にICT機器を使った授業がある」の肯定的な回答が81%であったのに対し、教員の否定的回答が42%であり開きがある。 	<p>ICT機器をいかに有効に活用するか、試行錯誤を引き続き行っていきたい。使う頻度も大切だが、それ以上に使い方にこだわって研修を進めていく。また、次年度は週末に持ち帰りを行い、ミライシード等の課題を与える予定。</p> <p>教員にまだまだ活用出来ていないという意識があるため、研修を深めていきたい。生徒向けのネットリテラシーについても引き続き指導を行っていく。</p>	デジタルとアナログを上手に使い分け、Wスタンダードで進めてもらいたい。ICTのスキルを家庭学習でも活かせるよう今後期待しています。ネットリテラシーについては家庭の協力が必須だと思う。	
業務改善	不登校生徒が学校へ登校できる環境を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内適応教室を継続的に運営し、心の相談員先生との連携を深め、不登校生徒が登校できることを目指す。 ● 不登校生徒が、一人でも多く登校できることを目指す。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒指導部を中心として、校外外との連携が密に行われた。また、心の相談員や通級指導教員とも協働し対応出来た。 ● コロナ禍をきっかけとし、不登校生徒は依然多い傾向にある。 	<p>不登校生徒について、様々な立場の人間が連携し、見通しを持って対応できた。次年度もタブレットを有効に活用していきたい。</p> <p>生徒の心情や背景をしっかりと捉えた上で、丁寧に対応を続けていく。</p>	一人一人に向き合い、ゆっくりと時間をかけ丁寧に対応していただきたい。タブレットも有効活用して欲しい。	
	働き方改革(労働時間の短縮)を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校務内容を見直し、教員が生徒と関わる時間や教材研究の時間を確保しながら、労働時間の短縮を図る。 ● 出退勤記録の把握に努め、午後8時のクロックアウトを目指す。 	C	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本、会議等が勤務時間内に終了するよう、短縮授業により時間を創出した。しかし、まだまだ効率的な時間の使い方に至っていない。 ● ほとんど守られていない状態。概ね1時間以上退勤時間はオーバーしている。 	<p>「働き方改革」については、教員が主体的に取り組む必要があり、次年度は職務の効率化について研修を行う必要がある。</p> <p>部活動休養日の水曜日に時間を設定し、ロックアウトを試行する。</p>	この改革により、結局先生方の負担が大きくなっているような気がします。無理をせず早く帰って休息していただきたい。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価		成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価	
業務改善	働き方改革(労働時間の短縮)を進める。	○ 部活動において、適切な指導時間で行い、適切な休養日を設ける。 ● 週当たり2日以上以上の休養日を設ける。(平日は少なくとも1日、土曜日及び日曜日は少なくとも1日以上を休養日とする)	B	B	B	○ 今年度より、部活動休養日を水曜日に設定し、短縮授業とすることで会議等の時間を確保した。また、職員会議をペーパーレスにすることで資源の節約、時短に繋がっている。 ● 部活動により活動日数、時間の開きはあるものの、概ね町の方針に沿って運営されている。次年度からの地域移行に期待している。	限られた時間の中で充実した活動を行っていくためには、生徒が主体性を持って取り組む必要がある。生徒・教員の意識改革が重要である。 計画および報告を町教委に提出している。働き方改革を推し進めるため超過している部活動については引き続き指導を行っていく。	労働時間を短縮することは簡単ではないが、努めることは大事。熱心な指導は必要だが、子供達の思いを引き出し「やらせてみる」という先生の意識改革も必要。
健康・体力・安全の充実	体力テストの結果等を分析し、日々の体育指導の改善を図り、生徒の体力向上を目指す。	○ 筋力、筋持久力、柔軟性が課題である。毎授業で、腕立て伏せ、腹筋、背筋等の補強運動を行う、また前屈運動を行い柔軟性を高める。そして、それらを習慣化していく。 ● 体力テストで、長座体前屈・上体起こしが、全国・県平均を上回ることを目指す。	B	B	B	○ 本校生徒が持つ課題を克服するため、保健体育の授業においてラジオ体操を無くし、ランニング・柔軟などのトレーニングを導入した。このことにより怪我をする生徒は減少している。 ● 全国体力テストにおいて「長座体前屈」偏差値45「上体起こし」偏差値47と、ともに低位な結果に終わった。	コロナ禍で中止していたプールの授業等が再開され生徒たちの活動する機会が増えており、体作りが進んでいる。今後も今年度導入しているトレーニングを授業始めに継続していきたい。本校生の特性として、柔軟性に課題がある。引き続き、柔軟性を高めるトレーニングを継続して行っていく。	トレーニングの効果に今後も期待しています。体を動かす楽しさが分かる、ダンス等のプログラムを積極的に導入することも良いかと思います。
	部活動に積極的に取り組む生徒を育てる。	○ 部活動を通して、人間形成と明るい学校生活の実現、支援を図る。 ● 生徒アンケートで「部活動に積極的に取り組んでいる」と回答する生徒85%以上を目指す。	B	B		○ 部活動を通して、生徒たちは縦横の人間関係を学んでおり、自己実現を目指している様子がある。また、教員も熱心に指導している。 ● 「部活動に積極的に取り組んでいる」に対し、肯定的な回答が72%であった。目標には開きがある。	全ての部活動において、教員主導のスタイルから、生徒自身が主体性を持って取り組むものになるよう互いの意識を変化させていきたい。 入部生徒を増やしていくとともに、生徒自らが積極的に取り組むよう意識の醸成を図っていく。	コロナ禍での制限も多かったと思います。今後は発表の場を増やして欲しい。外部講師を積極的に活用してもらいたい。
	校内での食育を充実させるとともに、食物アレルギーの生徒に適切な対応をする。	○ すべての教育活動を通して、食に関する指導を展開する。保護者や関係機関と連携して、食の意義と安全性について、実態を把握し適切な対応を行う。 ● 「朝食を必ず食べる」生徒100%を目指す。食物アレルギーによる事故「0」を目指す。	A	A		給食指導の時間には各クラスに教員が付き、声かけ・指導を行っている。また、昇降口に各クラスの残食の割合を表示し意識向上を図っている。毎月始め、献立表とともに給食だよりを発行し食育を推進している。 5%の生徒が「まったく取っていない」と答えている。家庭的な事情もあると推察するが、粘り強く食の大切さを指導していく必要がある。	町内では残食量はかなり少ない方であるが、0ではない。次年度は生徒会が中心となって残食の調査を実施し、全生徒に「食の大切さ」を周知しながら「食育活動」を展開していく予定である。中学生であれば、自ら調理して朝食を食べることも出来ることから、自立を促す。食物アレルギーについては引き続き丁寧に対応していく。	食の大切さを感じようような体験を授業でさせていただきたい。斑鳩町の給食は美味しくて大変ありがたいと思っています。今後家庭科の調理も復活することを期待しています。
	登下校の交通安全を確保する。	○ 毎週月曜日、全教員が通学路の主なポイントで登校指導(安全指導)を行い、全生徒に安全意識を構築する。 ● 交通事故「0」を目指す。	A	A		生徒指導部が中心となり登下校のマナー等についてあらゆる場面において注意を促した。また、一斉下校時は職員が門近くに立ち指導・声かけを行った。 登下校において積雪のため転倒した生徒を除いて大きな事故は発生しなかった。	「自らの命は自らが守る」という意識を生徒に持たせたい。次年度も、西和警察署から講師を招き交通安全に対する意識を高めていく。 次年度も「0」を必ず達成したい。	登下校のマナーはとても良いと思うので引き続き指導をお願いします。少数だがマナーの悪い生徒もいるようです。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価		成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
健康・体力 ・安全の充実	学校内での事故等を未然に防ぎ、生徒が充実した学校生活を送れる環境を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校施設や授業内容での安全確認、生徒の健康状態の確実な把握に努める。学校行事を安全第一の観点から見直し、事故を未然に防ぐ。 ○ 保護者及び専門機関との連携を密に行い、生徒の特性、指導法を確かめ合い、個に応じた指導を実践する。 ● 学校内での事故「0」を目指す。 ● 危機管理について職員研修を進める。また、日常の安全指導に努め、学校行事に関しては、安全面に関する実施項目を作成、周知徹底を図る。 	B	B	<p>職員朝礼において生徒指導部を中心に教員に対し啓発を求めた。また、全校生徒に集会など通じて度々注意喚起を行った。校門近くでの登下校時の立哨指導も効果的であった。保護者には学期に1回登校の様子を見守っていただいている。</p> <p>軽易な怪我はあったものの、大きな事故には至っていない。救急車を要請した回数には0回であった。再開した学校行事は多いが、安全面に留意して実施することが出来た。</p>	<p>今年度始めて不審者対策の避難訓練を実施することが出来た。次年度も家庭を巻き込みながら防犯意識を高め、生徒の「自らの命を守る」意識と行動を促していきたい。</p> <p>不審者対策を始めて実施することで、教職員にも防犯意識が高まった。次年度は生徒会にも働きかけ事故0を目指す。</p>	<p>事故防止や防犯意識を高めるため、講演や疑似体験などを積極的に実施してもらいたい。学校だけでは難しいと思うので、家庭でも防犯意識を高める会話が必要かと思えます。不審者情報の共有の為、今後も発信をお願いします。</p>
	いじめの早期発見・早期対応に努め、生徒が安心して登校し、充実した学校生活を送れるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめに関するアンケートや教育相談、日々の生徒観察を通して、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ● いじめの重大事象「0」を目指す。 ● いじめの解消率100%を目指す。 	C	C	<p>いじめアンケート、人権を確かめ合うアンケートを実施、その結果をもとに懇談を行い解決に向けて取り組んだ。また、教育相談期間を設ける、しなやかシートの実施など生徒が悩みを打ち明けやすい環境作りを行った。</p> <p>6月起こった重大事象について、その対応を丁寧に行うとともに、職員で何度も検証を行い、研修を重ねた。こうした事象が2度とないよう、教職員の人権感覚・感性を磨いていきたい。</p>	<p>今年度より、生徒指導体制を改善し、新たな取組を始めた矢先の重大事象発生であった。これを契機と捉え、日頃の生徒間の様子を丁寧に捉え対応できる教員の育成、強固な体制作りを進めていく。</p> <p>今回の事象を重く受け止め、風化させないよう人権教育を見直す必要がある。次年度は全校生徒で「人権を確かめる日」を学期に1～2回設定する予定。</p>	<p>悩みを打ち明けやすい環境作りにとっても期待しています。SNSで気になる内容を流している生徒もおり心配している。保護者が学校にも気軽に相談するなど家庭の協力も必要だと思えます。</p>
	問題行動の抑止、自らを律し、自らがよりよく生きようとする心を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事やHR・ボランティア活動を通して、自他ともに認めあい、高め合う取組を推進する。 ● 奉仕活動やボランティア活動に自主的に参加する生徒を増やす。 	C	C	<p>○ 学校行事はコロナ以前に徐々にも戻りつつあり、活発になってきており相互理解も進んでいる。ただし、ボランティア活動については、その回数も回復していないため参加率も低いままとなっている。</p> <p>● 「ボランティア活動に積極的に参加している」の否定的回答は生徒62%となっており、参加率は低い。</p>	<p>様々な行事が再開され、活動が盛んになってきたことにより、生徒の有用感が高まってきている。次年度は、生徒会を中心とした奉仕活動やボランティア活動の機会も増やしていきたい。</p> <p>「ボランティア活動に積極的に参加している」の肯定的回答50%以上を目標とする。</p>	<p>校庭の草引きなどPTA活動を生徒と一緒に行うのも良いと思えます。今後は行事が再開されて活動の場も増え、地域とのコミュニケーションが高まると期待しています。</p>